

## 「女子力男子」が「女子力」を身につける経緯の研究

浮田 萌

近年、「女子力」という言葉が注目を集め、2009年に新語・流行語大賞にノミネートされて以降、雑誌をはじめとするマスコミでも「女子力」と書かれた記事が多くみられるようになってきている。

そして、「女子力の高い男性」を好感的に評価する「女子力男子」という言葉も登場した。実際に、筆者の周りにも「女子力」の高い男性は存在している。筆者は1994年生れであるため、原田氏の言う「女子力男子」が多く存在する世代（1987年4月生まれより下の世代）に属している。筆者の周囲には美容に関心がある者や女性ファッション誌を読む者、少女マンガを読む者、料理をする者などがおり、女性である筆者以上にその女子力に対する知識量が多く、筆者の「女子力」の無さを痛感することが多くなった。そんな中で原田氏が「女子力男子」という言葉を考え、雑誌やテレビ番組、新聞といったメディアでも取り上げられるようになった。このことから、「女子力男子」という言葉が世の中に広まっていることは明らかである。しかし、その定義は曖昧で、多様な意味で用いられている。

先行研究（原田2014）で「女子力男子」は、「従来、女性がやっていたり、得意とされていたりした領域の力が備わっている男性のこと」とされている。この「従来、女性がやっていたり、得意とされていたりした領域の力」が「女子力」に当てはまるのだが、抽象的である。また、同氏は「女子力男子」のなかに「エセ女子力男子」が存在すると論じている。「エセ女子力男子」とは「女性に好かれることや、周囲の人間関係の中でステータスを上げることを目的とし、本音では興味がないが女子力を身につけている男性」のことである。筆者は、「エセ女子力男子」ではない男性（「純女子力男子」）にも、元々「エセ女子力男子」であった人物が存在するのではないかと考えている。しかし、原田氏の著した『女子力男子』では、その点について明らかにされていなかった。

原田氏は、「エセ女子力男子」は周囲の評価を気にして不本意で「女子力」を身につけており、中途半端な「女子力」を周囲にアピールするため評価が上がるどころか逆に下げてしまっている場合もあると述べる。「純女子力男子」と「エセ女子力男子」の関係性は明らかにされておらず、別ものであるかのようにだが「純女子力男子」の中にも元々「エセ女子力男子」であった者もいるのではないかと疑問に思った。そこで本論では「女子力男子」が「女子力」を身につける経緯を調査し、「純女子力男子」と「エセ女子力男子」の関係性の有無を明らかにする。

第1章では「女子力」について説明する。元々、「女子力男子」という言葉が登場する以前に女性の間で「女子力」という言葉が使用されるようになった。その「女子力」の定義と「女子力」という言葉の登場によりプレッシャーを感じる女性が存在することを記す。

第2章では、「女子力男子」について説明をする。男性の女性化は「女子力男子」という言葉が登場する以前から始まっていた。これまでの男性の女性化についてまとめた後、原田

氏が論じている「女子力男子」に関する説明を行う。

第3章ではインタビュー調査により、「女子力男子」の実態調査を行う。調査計画のまとめ、調査結果の分類方法、インタビュー結果のまとめと考察を記す。

第4章では結論として「純女子力男子」と「エセ女子力男子」の関係性を明らかにする。その後、本論文の貢献と、本論文の問題点と今後の課題を記す。